

令和元年度

男女共同参画社会づくりのための

意識調査

概要版

大分県

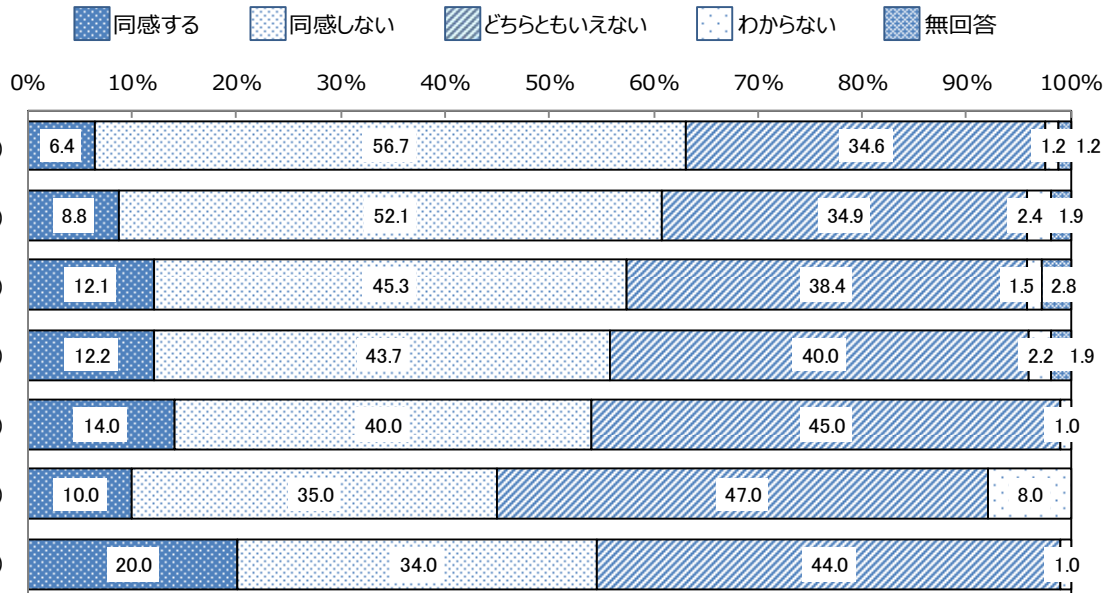
1. 男女の意識について

「男は仕事、女は家庭」という考え方について

「男は仕事、女は家庭」という考え方（固定的性別役割分担意識※）に「同感しない」人は、着実に増加。

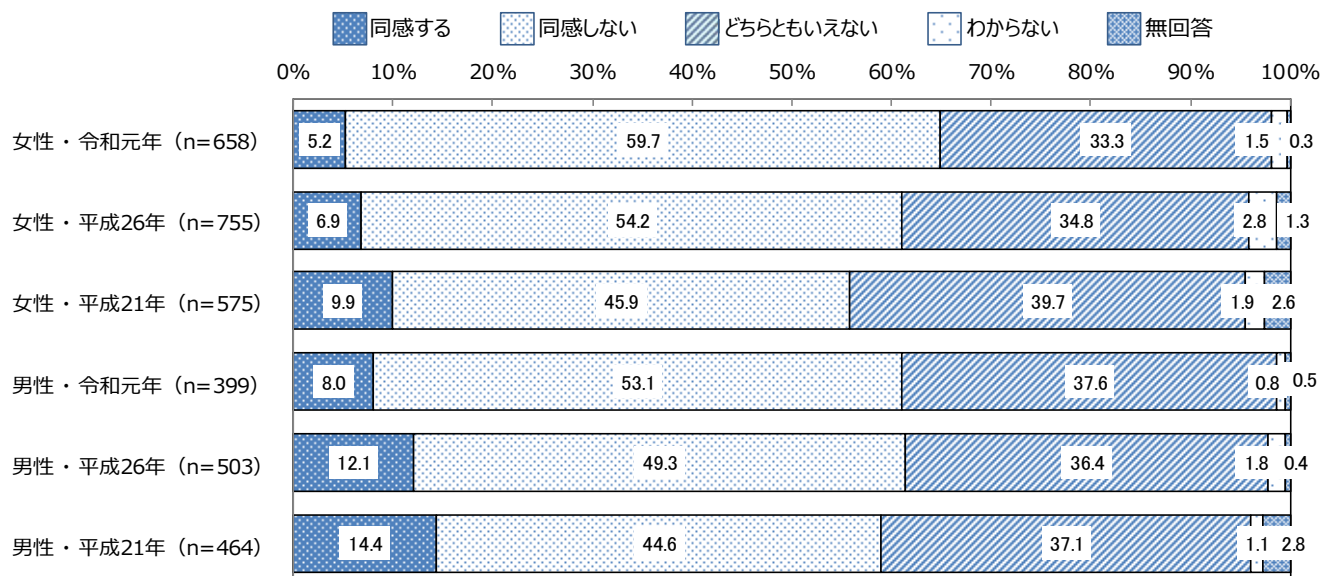
全体

- 全体では、「同感しない」が56.7%で、昭和62年以降増加しており、前回調査（52.1%）と比較すると4.6ポイント増加しています。一方、「同感する」は6.4%で、前回調査（8.8%）と比較すると2.4ポイント減少しています。



性別

- 性別でも、男女ともに「同感しない」が最も高く、女性59.7%、男性53.1%と着実に増加しています。



※固定的性別役割分担意識とは、

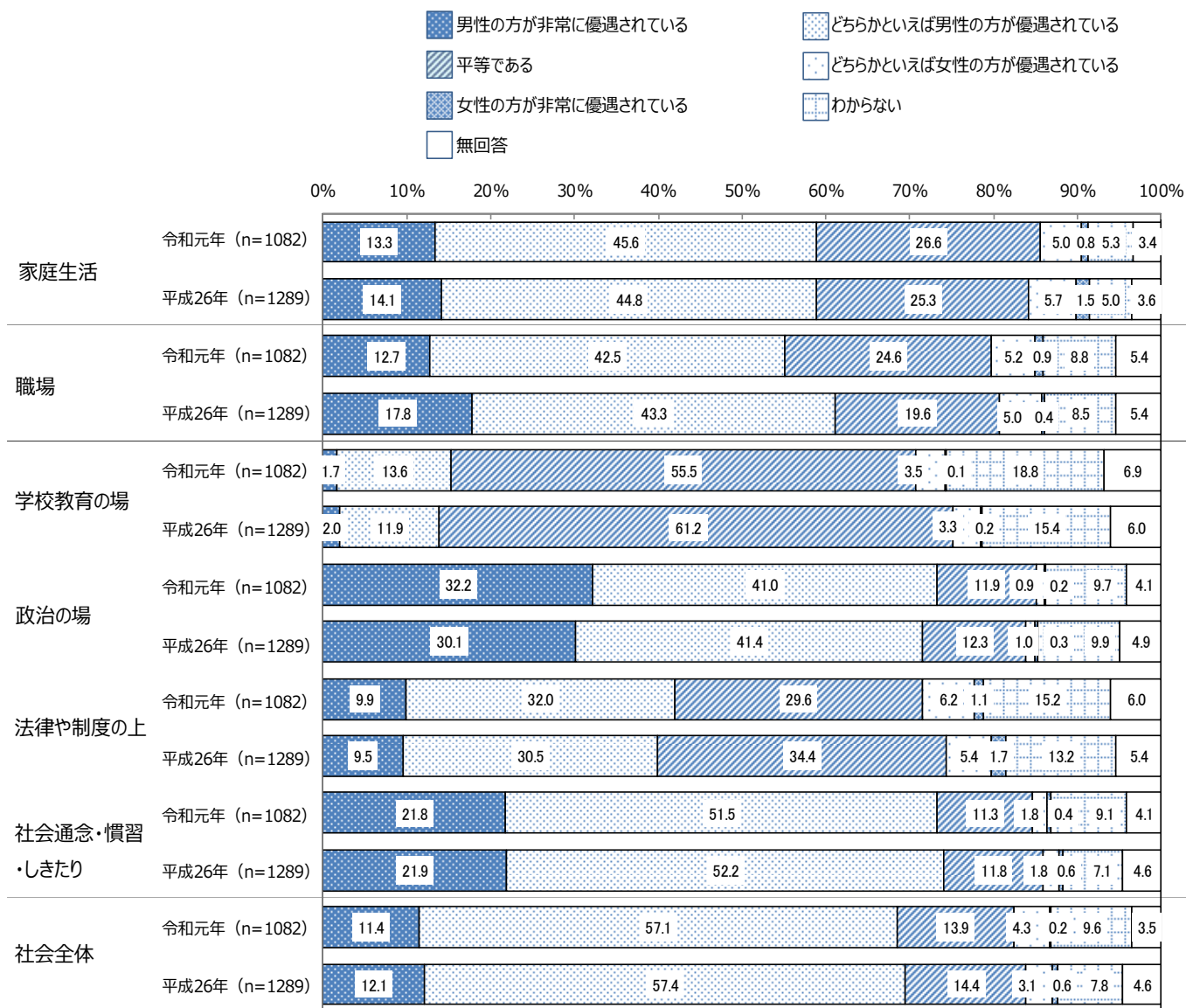
「男は仕事、女は家庭」というように、性別を理由として役割を固定的に考えることです。

男女の地位の平等感について

「社会全体」において「平等である」と回答した割合は 13.9%であり、前回調査（14.4%）とほぼ変わらないが、「職場」において「平等である」と回答した割合は 24.6%と、前回調査（19.6%）と比較すると5.0ポイント増加。

- 「平等である」と回答した割合は、「学校教育の場」が 55.5%で最も高くなっています。
- 「男性の方が優遇されている（計）※」は、「政治の場」と「社会通念・慣習・しきたり」で7割を超えています。

※「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合算したものの。

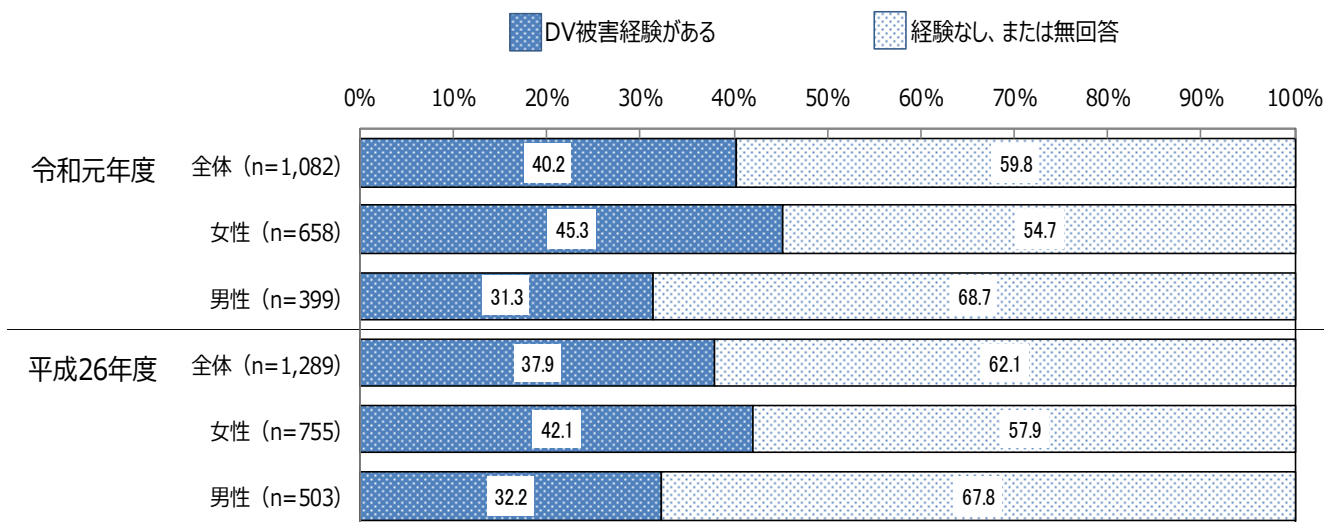


2. ドメスティック・バイオレンス（配偶者・恋人間の暴力）について

配偶者や恋人など親密な関係にある人との間の被害（DV被害）の経験

一度でも被害を受けたことがあるDV被害経験者は4割。

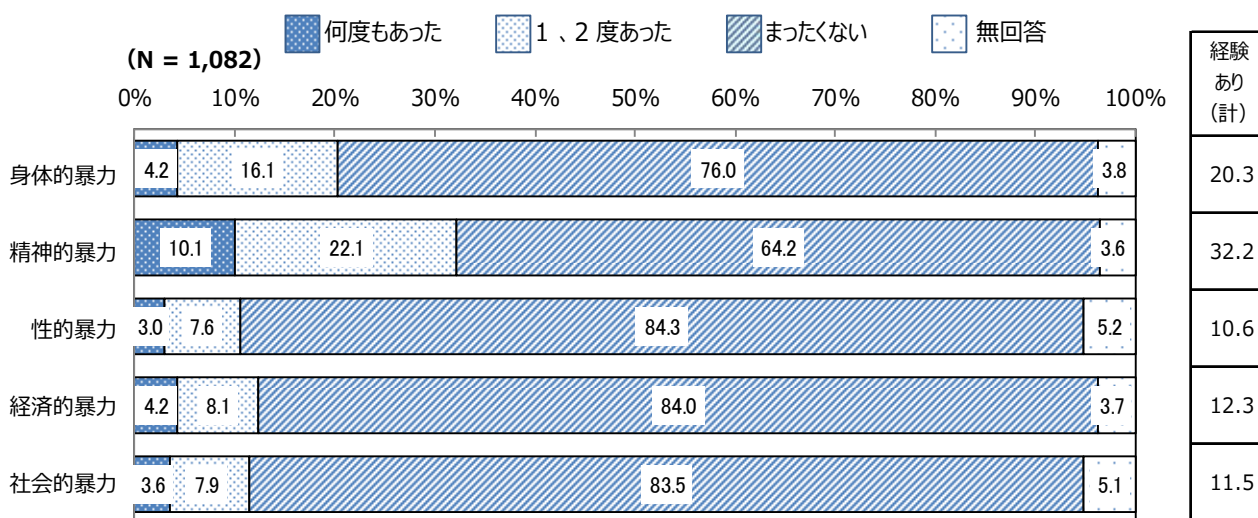
- 身体的・精神的・性的・経済的・社会的暴力のいずれかの暴力を1度でも受けたことがあるDV被害経験者は、全体では40.2%となっており、前回調査（37.9%）と比較すると2.3ポイント増加しています。
- 「DV被害経験がある」女性の割合は45.3%となっており、前回調査（42.1%）と比較すると3.2ポイント増加しています。



形態別

- 形態別では、「経験あり（計）」は「精神的暴力」が32.2%で最も高く、次いで「身体的暴力」が20.3%、「経済的暴力」が12.3%となっています。

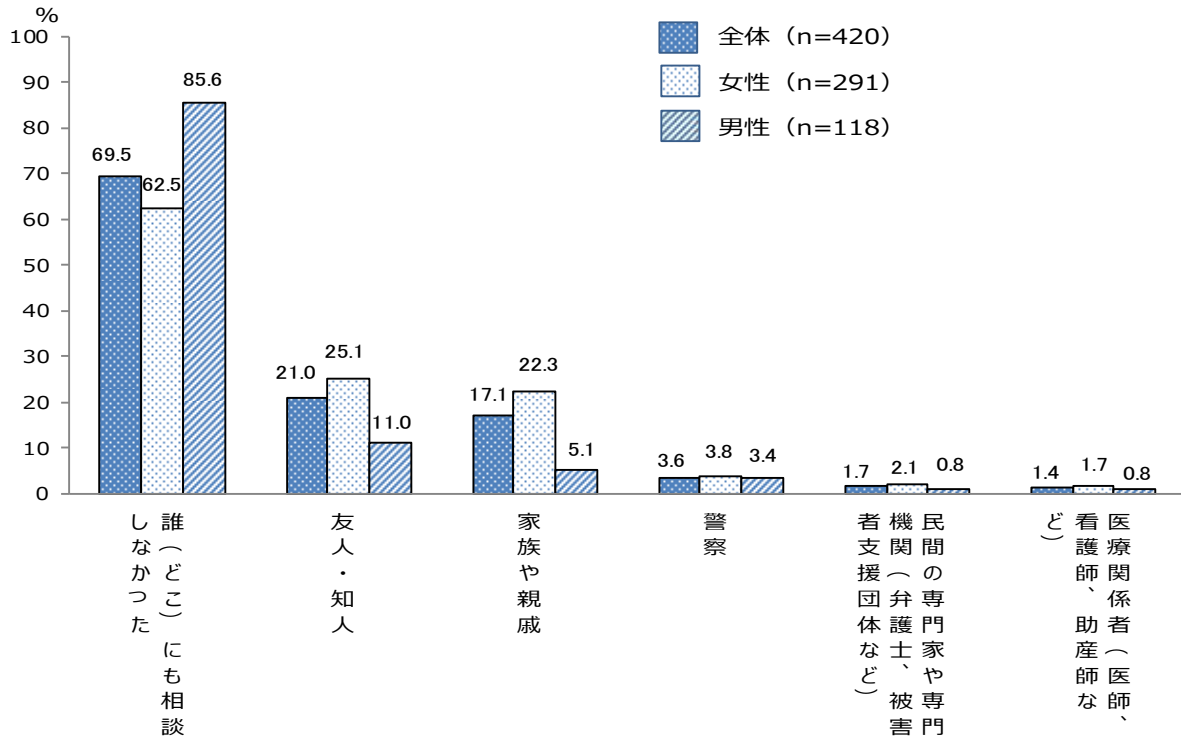
※「経験あり（計）」は、「何度もあった」と「1、2度あった」を合算したものです。



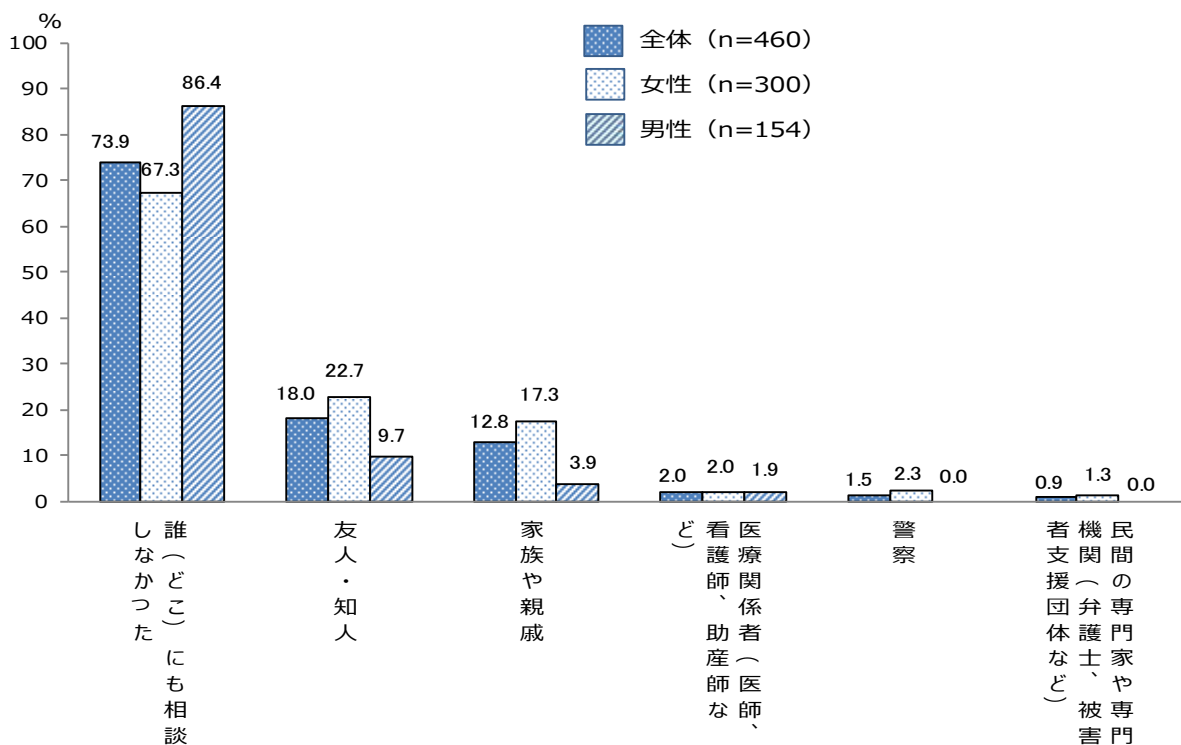
DV被害を誰（どこ）に相談したか

- 全体では、「誰（どこ）にも相談しなかった」割合が 69.5%で最も高く、次いで「友人・知人」が 21.0%、「家族や親戚」が 17.1%となっています。
- 前回調査と比較すると、「誰（どこ）にも相談しなかった」割合は、4.4 ポイント減少し、「友人・知人」、「家族や親戚」に相談した割合はそれぞれ 3.0 ポイント、4.3 ポイント増加しています。

令和元年度



平成 26 年度

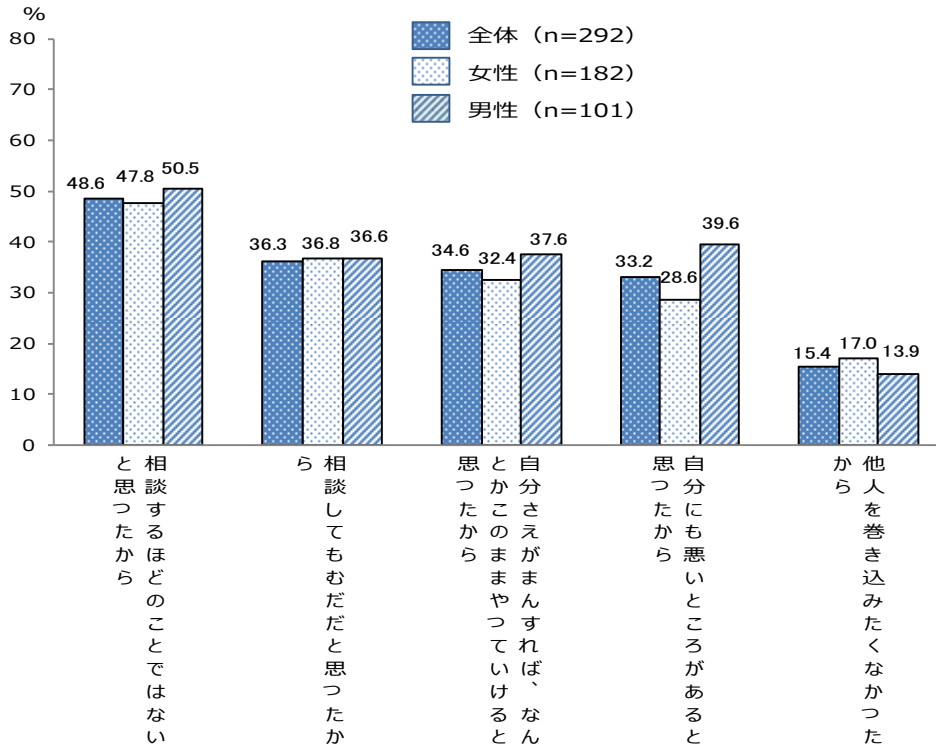


DV被害を相談しなかった理由

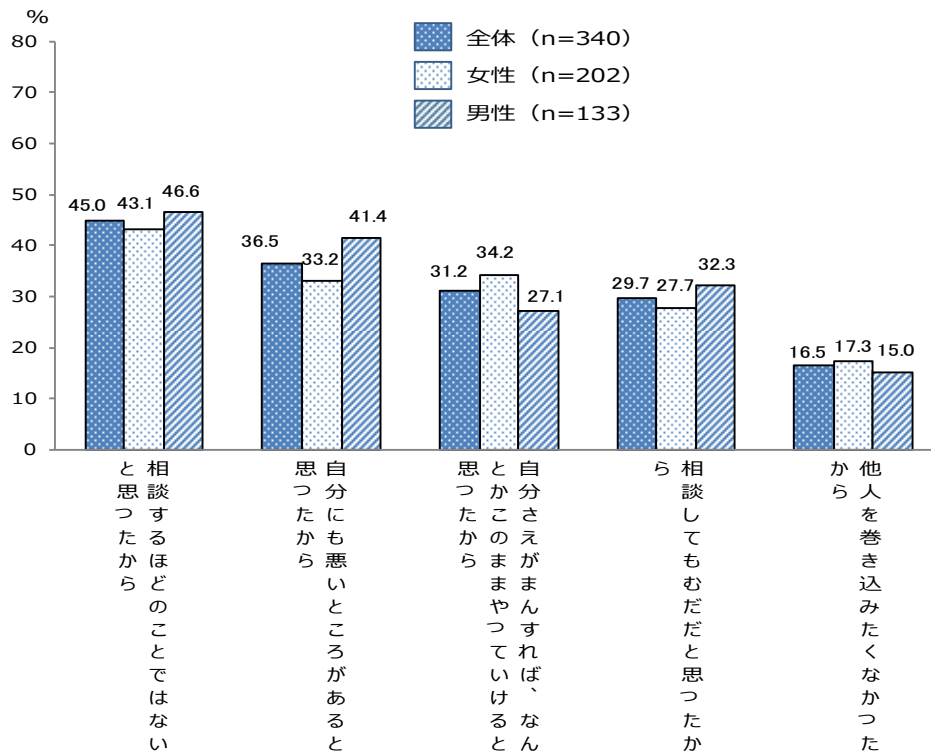
DV被害を相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が約5割。

- 全体では、「相談するほどのことではないと思ったから」が48.6%と高く、次いで「相談してもむだだと思ったから」が36.3%、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていると」が34.6%となっています。

令和元年度



平成26年度

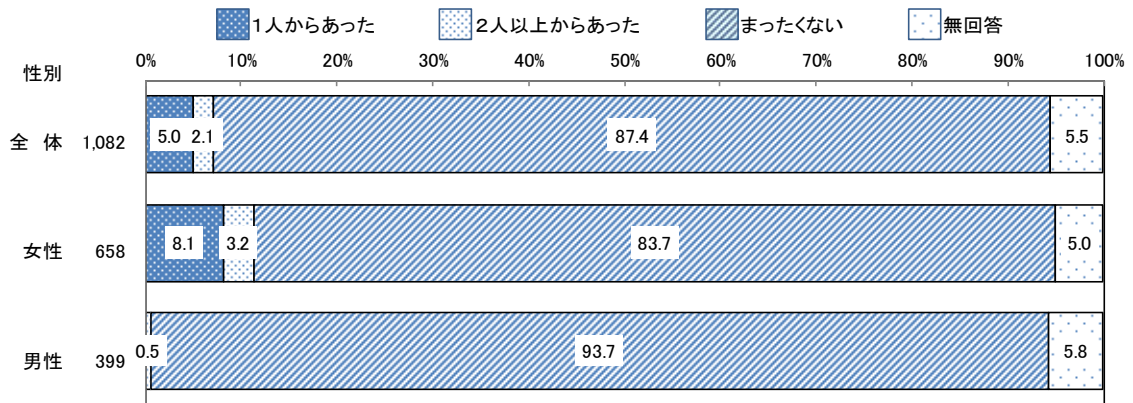


3. 性暴力について

性暴力被害の経験

一度でも性暴力被害を受けたことのある女性は 1 割超。

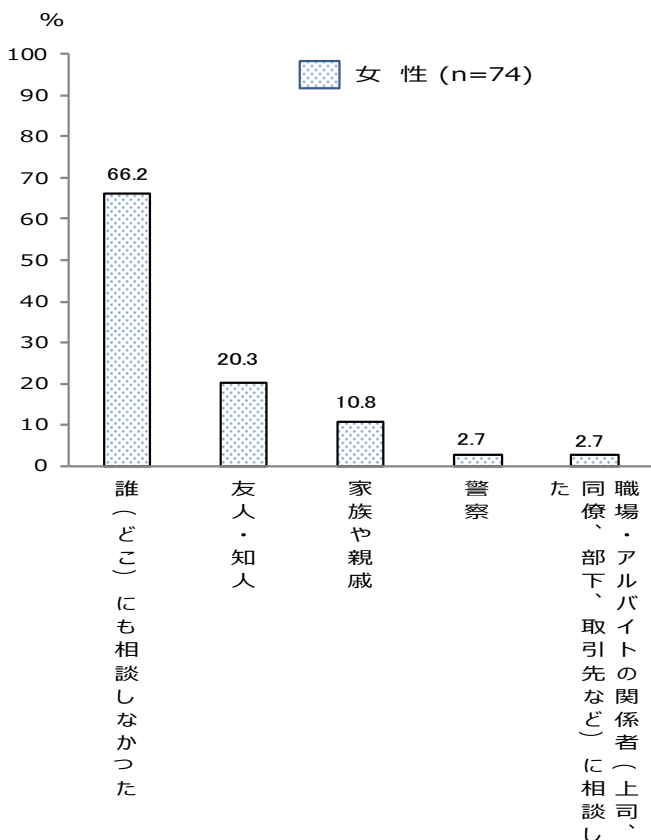
● 女性では、「1 人からあった」が 8.1%、「2 人以上からあった」が 3.2%となっており、合計で 11.3%となっています。



性暴力被害を誰（どこ）に相談したか

性暴力被害を「誰（どこ）にも相談しなかった」と回答した女性は、3 人に 2 人。

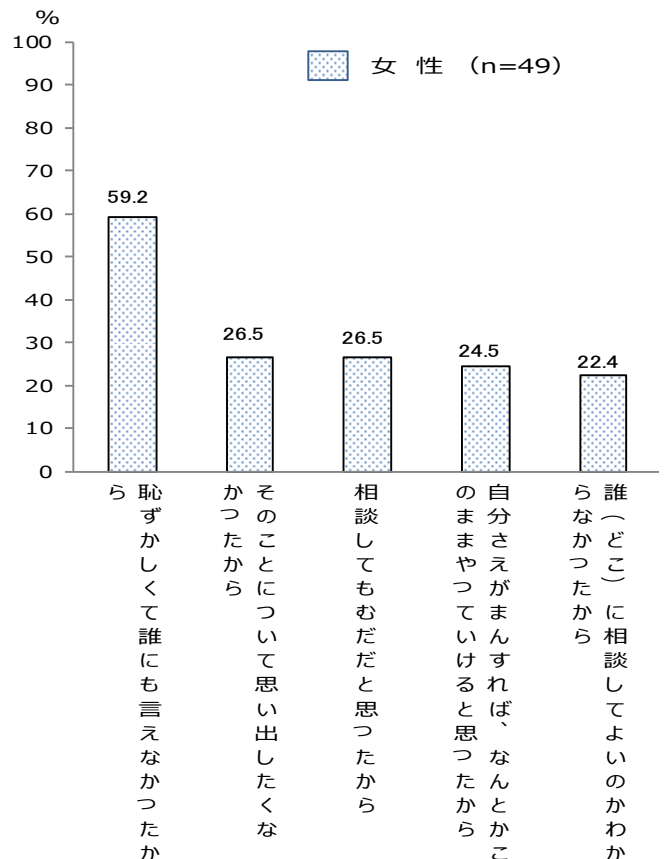
- 女性では、「誰（どこ）にも相談しなかった」が 66.2%となっています。
- 「友人・知人」と回答した女性は 20.3%となっています。



性暴力被害を相談しなかった理由

性暴力被害を相談しなかった理由は、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が約 6 割。

- 女性では、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が 59.2%と最も高くなっています。

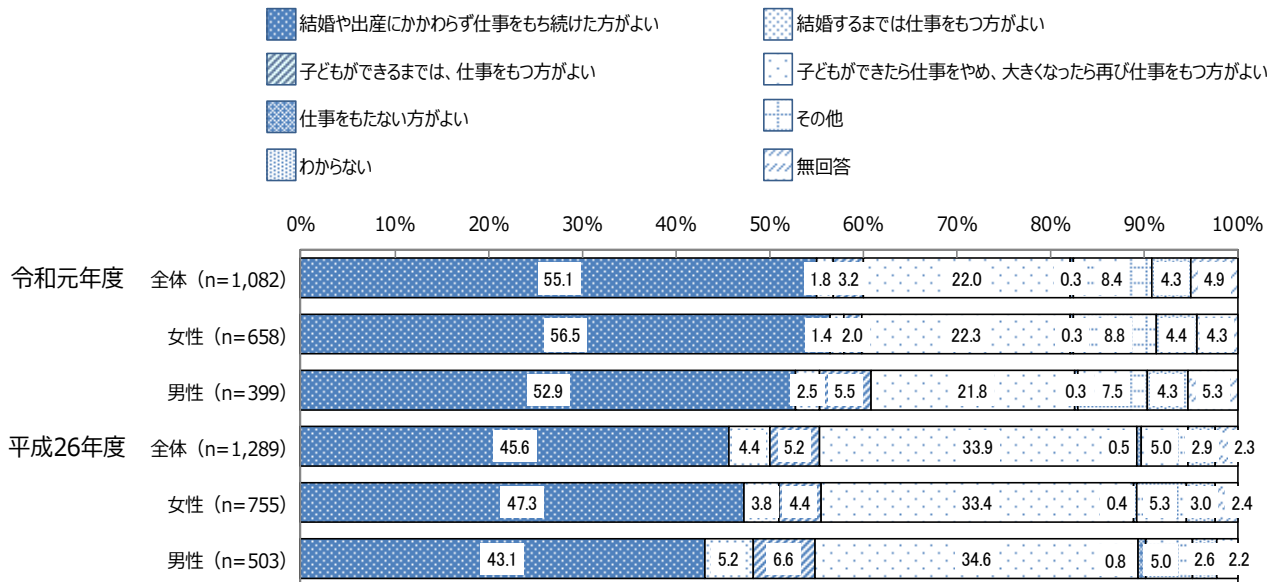


4. 女性の活躍について

女性の就業について

「結婚や出産にかかわらず仕事をもち続けた方がよい」は5割を超え、前回と比較して大幅に増加。

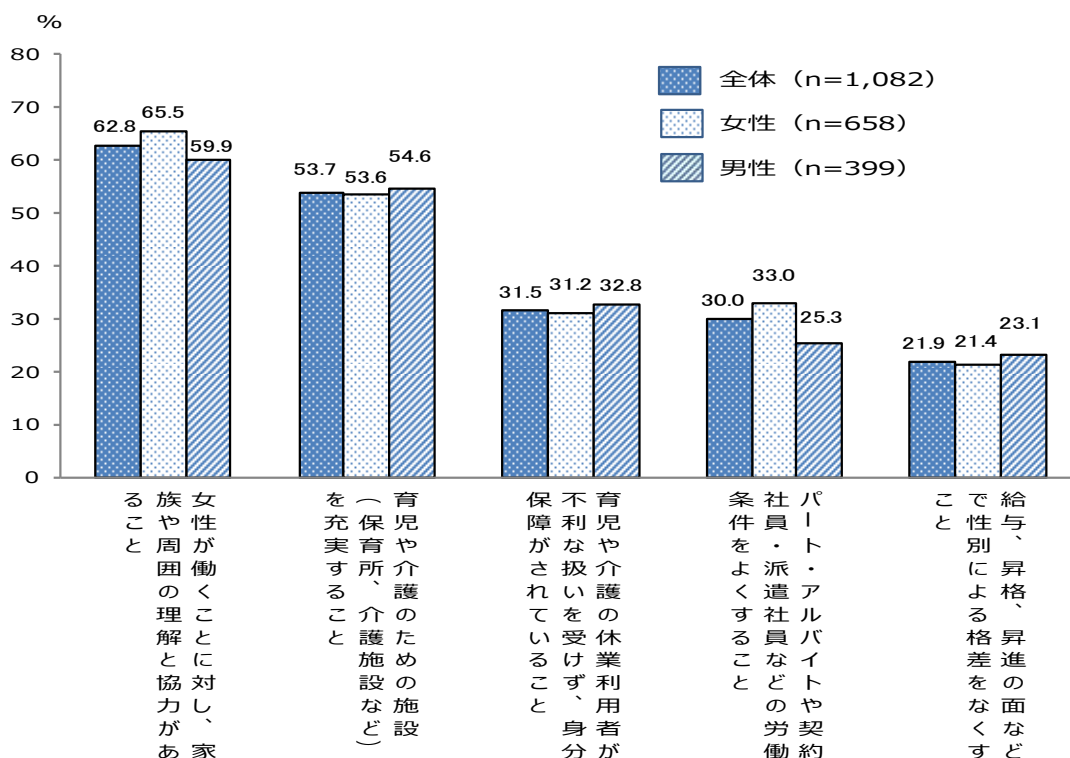
- 全体では「結婚や出産にかかわらず仕事をもち続けた方がよい」が55.1%となっており、前回調査（45.6%）と比較すると9.5ポイント高くなっています。また、「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」は22.0%となっており、前回調査（33.9%）と比較すると、11.9ポイント減少しています。



女性の就業継続に必要なこと

女性の就業継続に必要なことは「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が6割超。

- 全体では「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が62.8%で最も高く、次に「育児や介護のための施設（保育所、介護施設など）を充実すること」が53.7%となっています。

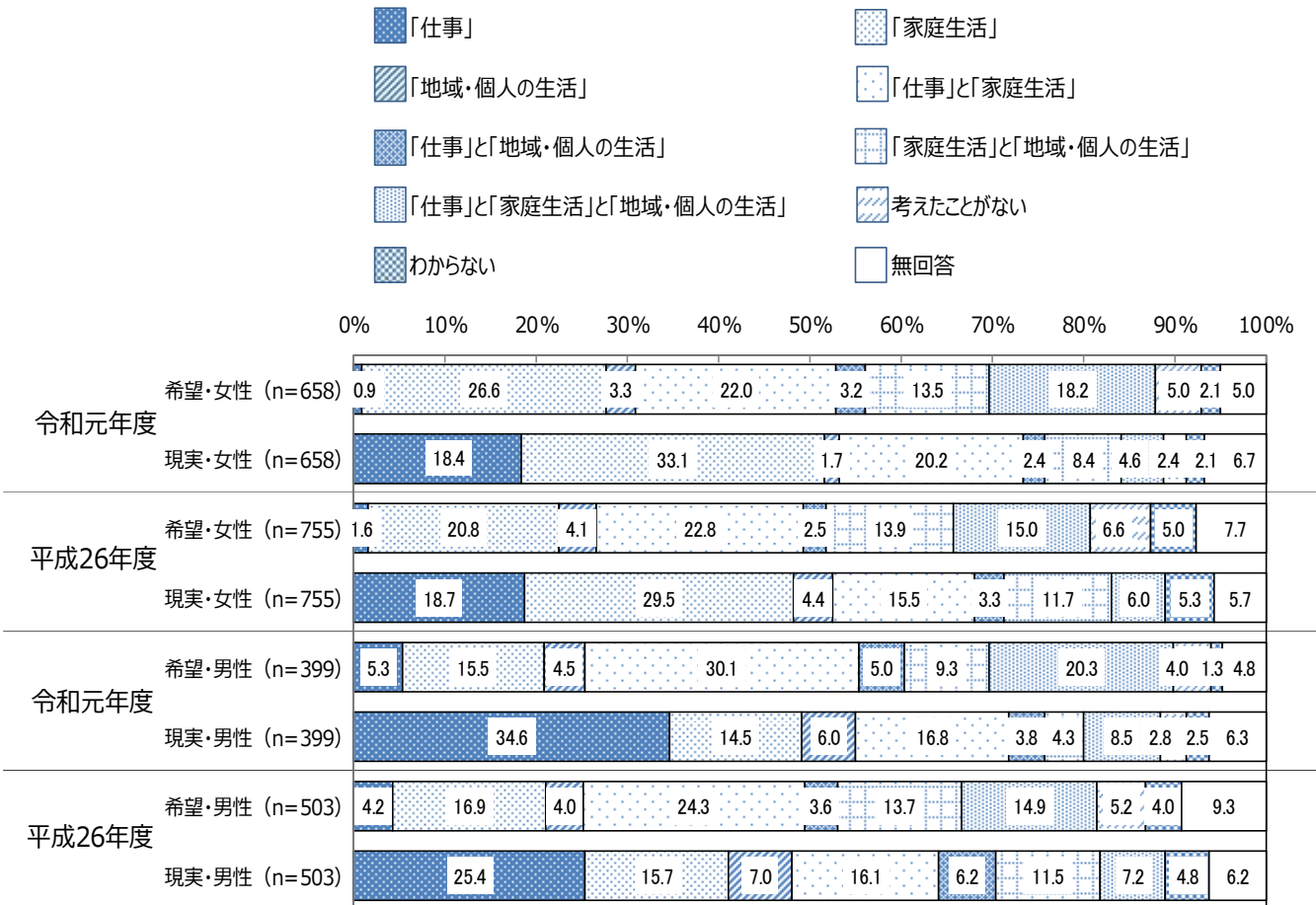


5. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

現在の生活の中での希望の優先度と現実の優先度について

希望と現実で最も差がみられたのは「仕事」。

- いずれの性別でも希望と現実で最も差がみられたのは「仕事」となっており、女性は17.5ポイント、男性は29.3ポイントとなっています。
- 現実的に「仕事」を優先していると回答した男性は、34.6%となっており、前回調査（25.4%）と比較すると9.2ポイント増加しています。

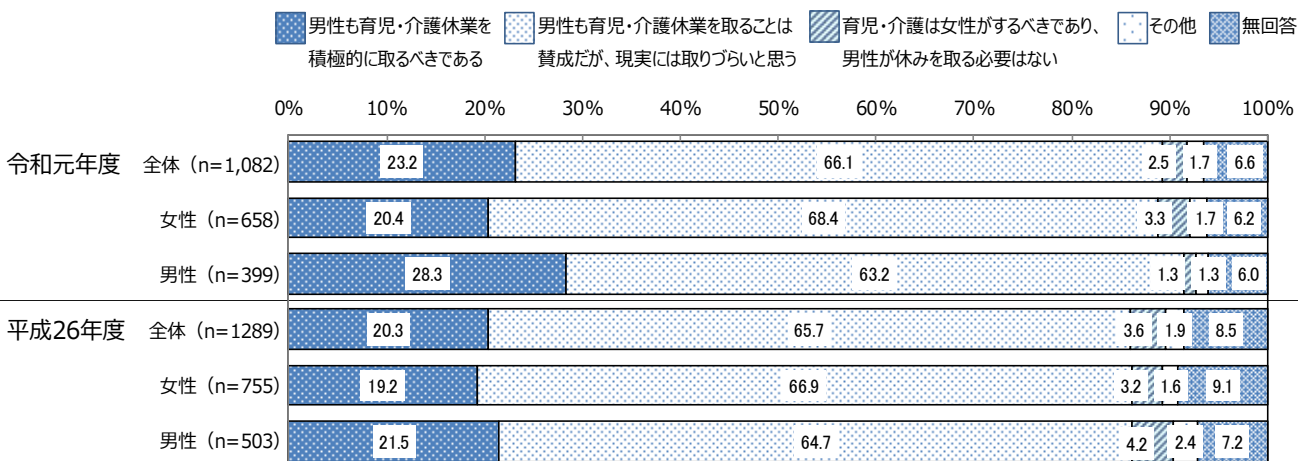


	女性			男性		
	希望	現実	差	希望	現実	差
「仕事」	0.9	18.4	17.5	5.3	34.6	29.3
「家庭生活」	26.6	33.1	6.5	15.5	14.5	1.0
「地域・個人の生活」	3.3	1.7	1.6	4.5	6.0	1.5
「仕事」と「家庭生活」	22.0	20.2	1.8	30.1	16.8	13.3
「仕事」と「地域・個人の生活」	3.2	2.4	0.8	5.0	3.8	1.2
「家庭生活」と「地域・個人の生活」	13.5	8.4	5.1	9.3	4.3	5.0
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」	18.2	4.6	13.6	20.3	8.5	11.8
考えたことがない	5.0	2.4	2.6	4.0	2.8	1.2
わからない	2.1	2.1	0.0	1.3	2.5	1.2
無回答	5.0	6.7	1.7	4.8	6.3	1.5

男性が育児・介護休業をとることについて

「男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」が6割半ば。

- 全体で最も高い「男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」（66.1%）は、前回調査（65.7%）とほぼ同じとなっています。
- 男性で「男性も育児・介護休業を積極的に取るべきである」と回答した方は、28.3%であり、前回調査（21.5%）と比較すると、6.8ポイント増加しています。



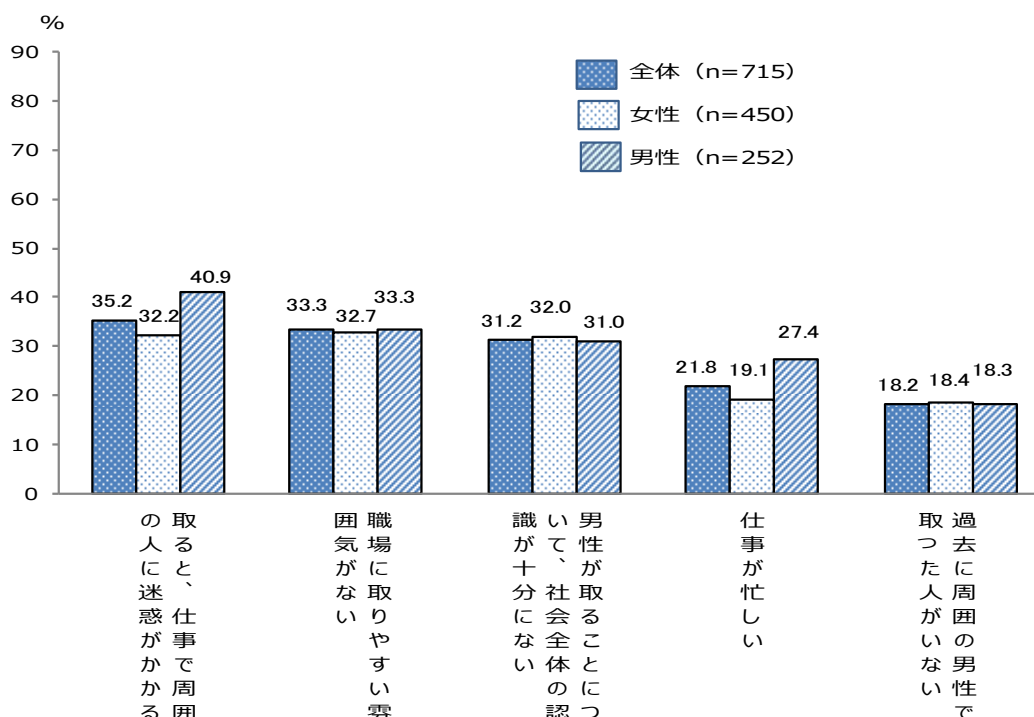
※仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）とは

「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」のことです。

（仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章より）

男性が育児・介護休業を取りづらいと思う理由

- 「取ると、仕事で周囲の人に迷惑がかかる」、「職場に取りやすい雰囲気がない」、「男性が取ることについて、社会全体の認識が十分でない」がそれぞれ3割を超えています。

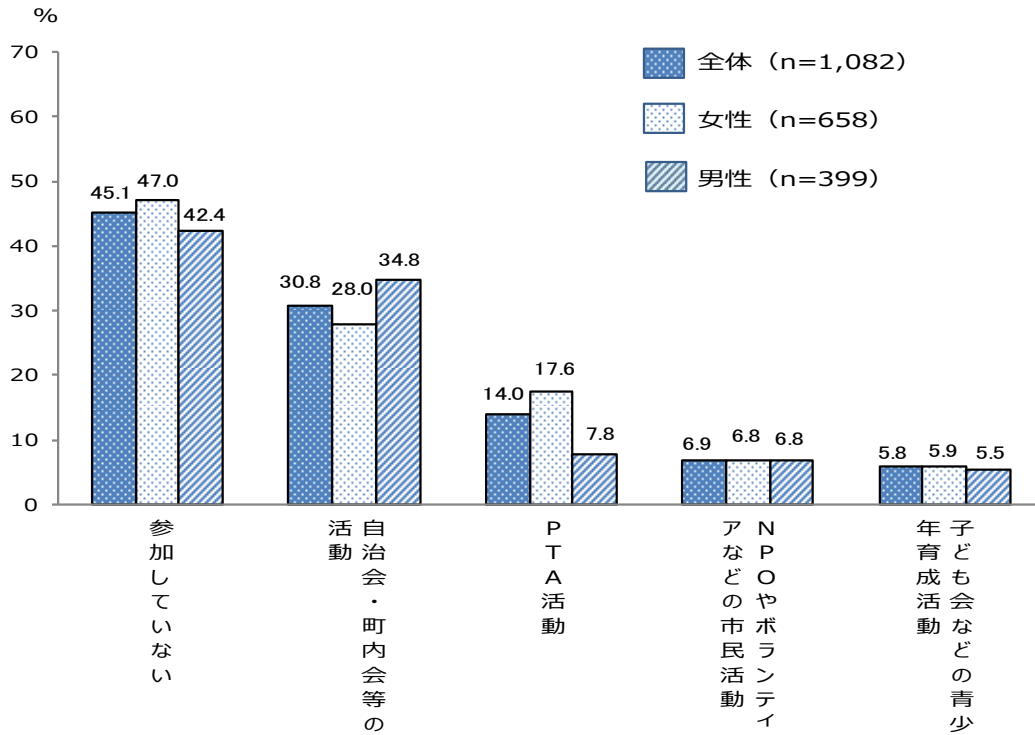


6. 地域活動について

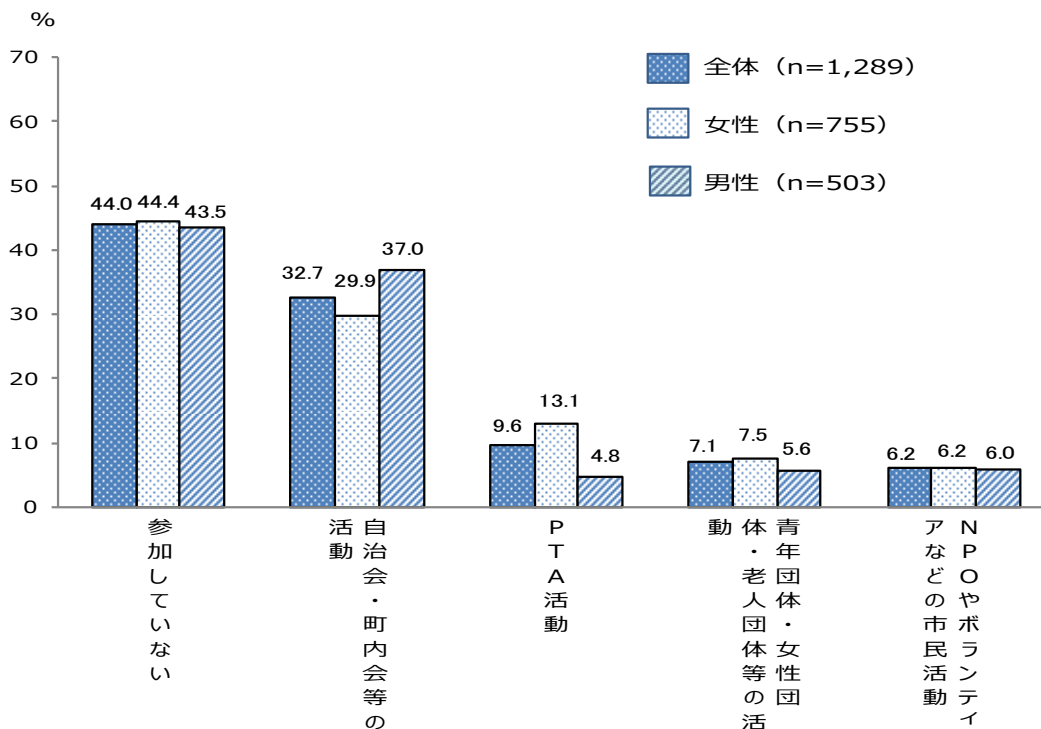
どのような地域活動を行っているかについて

- 全体では、「参加していない」と回答した割合は 45.1%となっており、前回調査（44.0%）と比較してもほぼ変わらない結果となっています。
- 「PTA 活動」と回答した割合は、女性で 17.6%、男性で 7.8%となっており、前回調査と比較するとそれぞれ 4.5 ポイント、3.0 ポイント増加しています。

令和元年度



平成 26 年度



〔調査概要〕

- 調査対象：県内に居住する18歳以上の男女3,000人
- 調査期間：令和元年9月17日～10月7日
- 回収状況：有効回収数1,082人（有効回収率36.1%）
女性658人、男性399人、
- 調査方法：郵送による配布・回収

令和元年度 男女共同参画社会づくりのための意識調査 概要版

発行	大分県 生活環境部 県民生活・男女共同参画課
住所	〒870-0037 大分県大分市東春日町1番1号 N s 大分ビル1階
電話	097-534-2039
E-mail	oita-sankaku@pref.oita.lg.jp